

午前 9 時頃患家 = 着キシ時 3 人何レモ濡レ鼠ノ如ク 4 肢ヲ垂レ近クノ小川ヨリ歸宅ス。 「主訴」 本早朝(8日) 息子丙氏ガ草刈ニ行キ漆ノ木ノ下ヲ通テ歸宅セシニ 4 肢先端及ビ頭部顔面頭部ニ痒痛ガアルノデ石鹼ニテ 4 肢ヲ洗ヒシニ、隣ニミ見テ居タル父母ニ又該石鹼液が飛ビ、其レヨリ 3 人共ニ同ジ訴ヲ見タリ。殊ニ息子丙氏ノミハ症狀悪化シ隣人ヲ勧メニヨリ近クノ小川ニ入り冷水ニ浸ツタト云フ。

「已往症」 健全ニシテ疾患無シ。

「症狀」 息丙氏ノミ脈搏 102, 時 = 20 脇ニテ結代スレドモ心臓衰弱ヲ見ズ。然シ肢端紅痛症ノ如キ特有ノ症狀ヲ呈シ 4 肢ノ末端ニ腫脹潮紅、灼熱ヲ來ス。刺痛、裂痛、或ハ火ニ燒クガ如ク、痒痛ヨリモ寧ロ疼痛ノ爲反轉シテ苦悶ノ狀見ルニ堪エ難キモノノ如シ。余ニ向テ緩解法ヲ訴フ。殊ニ頭部ヲ自己ノ手ニテ叩クガ如シ。父母モ大體はト大同小異、症狀ナルモ脈ノ結代ナシ。然シ何レモ胃腸症狀、脳症狀等ヲ認メズ(以上文献ヲ見ルニ西川義方博士菌中毒ノ診斷下治療其九、からはつたけノ症狀ニ一致ス)。

「類症鑑別」 (1) 漆中毒：患者ハスク訴ヘレドモ漆疹ニ見ルガ如キ皮膚浸潤モナシ。又本人等ハ再三うるしニ觸レシモ未ダカツテ斯カル局所症狀ヲ呈セズト。(2) 食餌性中毒、例ヘバ蕷麻疹：原因ニ相違アリ、(3) 薬品中毒：發疹、症狀ヲ全然異ニシ又田舎ノ農夫ニ斯カル薬品ハ使用セザル事。

依テ試ミニ昨夜(7日)及ビ本朝ニ何カ食膳ニ上セシモノナキヤヲ問ヒシニ、息子丙氏ハ昨日午後近クノ雜木林ニ薪ヲ採リニ行キシトコロ、くぬぎ茸(俗稱なば)ヲ發見、是ヲ持參シテ 3 人共夕食膳ニ上セリト云フ。然シ同夜ハ何シ訴モナカリシト。依テ實物ノ所在ヲ質シタルニ幸ニ一片ヲ得、土井氏ニ鑑定ヲ乞フ。

「經過」 患者ハ約 2 里近クノ田舎ニシテ余ハタゞ一度診療セシノミニシテ翌日症狀サシテ變化無キ儘、同僚松山醫師ノ診療ヲ乞ヒタリシガ翌々日頃ヨリシテ漸次症狀ハ消退シ、幸ニ合併症モ起ラズ生命ニ事無キヲ得タリト云フ。

「標本」 無菌類ノ一種きくらげニ似テ、蓋ハ平滑、黒褐色、柔軟ナル性質ヲ有ス。味ハ一種辛烈ナリ。

最後ニ貴重ナル診療記並ニ標本ヲ寄セラレタル佐伯醫師並ニ土井氏ニ深謝スル。

本卷第四號採擗餘錄(其三)訂正

誤

正

p. 226, 第 1 行. An observation on	An observation of
p. 230, 第 3 行. (第 6 圖)	(第 5 圖 1)
第 14 行. E	F
p. 233, 第 4 行. 膜組織	厚膜組織
第 5 行. 走間	走向
p. 237, 第 5 行. 形態學	系統學